

わたしたちの予算が「まちづくり」のためにどのように使われたかを報告します。



令和4年度 わたしたちのまち「越前町」の決算報告

令和4年度

(単位:千円)

区分	歳入決算額		歳出決算額		歳入歳出 差引残額 (A) - (B)
	(A)	対前年度比 (%)	(B)	対前年度比 (%)	
一般会計	14,857,299	▲0.9	14,225,882	▲0.5	631,417
特別会計					
国民健康保険事業	2,410,132	0.6	2,374,440	2.1	35,692
介護保険事業	2,447,292	▲0.3	2,348,164	1.2	99,128
後期高齢者医療事業	308,370	7.9	306,284	7.8	2,086
簡易水道事業	406,540	▲2.1	401,461	▲4.9	5,079
公共下水道事業	615,066	2.3	608,358	2.0	6,708
集落排水事業	260,656	▲7.1	257,300	▲7.0	3,356
温泉事業	26,309	50.3	23,362	64.6	2,947
農林漁業体験学習館事業	22,640	▲2.2	22,640	▲2.2	0
土地区画整理事業	4,901	490,000.0	4,901	490,000.0	0
企業会計					
上水道事業					
収益的収支	239,931	▲5.5	219,522	▲4.3	20,409
資本的収支	97,847	▲26.4	159,780	▲12.4	▲61,933
国民健康保険病院事業					
収益的収支	205,850	▲34.1	203,906	▲30.3	1,944
資本的収支	35,824	▲79.7	118,525	▲54.4	▲82,701
合計	21,938,657	▲1.8	21,274,525	▲1.1	664,132

※決算額の千円未満を四捨五入しています。

■一般会計の歳入総額
令和4年度の一般会計、特別会計、企業会計を合わせた歳入総額は21億9,322万9千9百99円です。前年度より3億9,716万6千588円減りました。また、歳入総額から歳出総額を差し引いた収支は、6億6,413万2千9百99円の黒字となりました。

そのうち、教育や福祉、土木など一般的な行政運営をまかなう一般会計では、歳入が1億4,857万2千9百99円、歳出が1億4,225万8千882円、前年度より6,622万4千円増(76.9%増)となりました。

■一般会計の歳入総額の状況

■一般会計の歳出決算の状況

一般会計の歳入総額は、前年度と比べて1億2,932万9千9百99円減少しました。

減少した主な要因として、交付税は固定資産税などの収税の増に伴う基準財政収入額の増により1億6,127万5千円減少(2.8%減)したことや、防災行政無線整備などの完成に伴う起債の借入減により、町債が8億6,760万円減少(68.6%減)したことなどがあげられます。

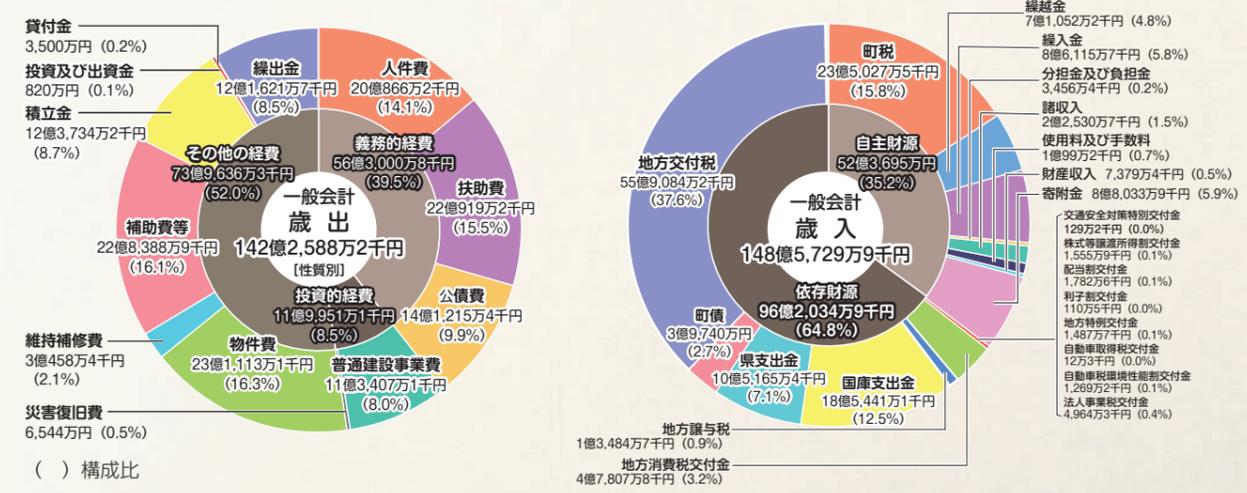
一方で、ふるさと再生寄附金(ふるさと納税)が3億8,687万1千円増加(78.6%増)し、同寄附金を積立てたふるさと再生基金からの繰入金金が2億5,624万9千9百99円増加(126.9%増)するなど、増となった項目もあります。

■一般会計・歳出決算の状況

一般会計の歳出総額は、前年度と比べて6,622万4千円減少しました。

減少した主な要因として、防災行政無線整備などの完成に伴い、普通建設事業費が7億7,115万円減少(40.3%減)したことや、令和3年度に発生した災害の復旧事業の大部分が令和3年度中に完了したこと、災害復旧事業費が1億2,516万4千円減少(65.7%減)したことなどがあげられます。

また、ふるさと納税の増に伴い積立金が3億8,098万円増加(44.5%増)し、それに伴うふるさと納税に関する委託料が1億8,975万8千円増加(76.9%増)しました。



快適で安全に住めるまちづくり

●人に優しい道路網の整備
安全・安心に通行できる道路を確保するため、国の補助金を活用しながら、町道の改良や維持補修、消雪設備の整備などを行いました。5億4,252万2千円



▲デマンドタクシー「チョイソコえちぜん」

誰もが健康で暮らしやすさを実感できるまちづくり

●子どもを産み育てやすい環境づくり

妊娠届出や出産届出を行った妊婦及び産婦に対して保健師との面談や継続的な情報発信を行い、また、経済的支援として給付金を支給しました。1,184万6千円

人が輝き豊かな心が満ちあふれるまちづくり

●学校教育環境の充実
小中学校で空調設備の更新や老朽化した外壁の改修工事を行い、快適で安全・安心な教育環境の充実に努めました。4,470万6千円



▲伝統工芸職人塾

人と仕事の活力みなぎるまちづくり

●伝統産業の振興
越前焼職人の後継者育成や若手職人を対象としたスキルアップ研修、陶土の安定供給のための土づくり職人育成に対する支援、町内における需要喚起事業など、越前焼産地の育成を図りました。1,122万5千円

●住民への支援

新型コロナウイルス感染症や一般の物価等高騰を受け、特に家計への影響が大きい住民税非課税世帯等に対して給付金を支給し、生活・暮らしの支援を図りました。2億1,274万1千円

ふるさと個性を活かし交流を育むまちづくり

●観光産業の活性化
北陸新幹線開業を見据え、新幹線の利用による首都圏からの利用者や増加する外国人観光客等の新たな宿泊需要に対応するため、宿泊施設事業者が行う施設改修等を支援することで、観光客の受入れ環境の充実を図りました。1,927万7千円

持続可能な健全行政のまちづくり

●財政の健全運営
ふるさと納税制度による本町への寄附を募り、寄附者への返礼品に地元産品を贈呈することで地域消費喚起、越前町のPRなど地域振興に繋げ、また、企業版ふるさと納税を通じて寄附の募集活動を行い、企業の社会貢献に寄与するとともに自主財源の確保に努めました。4億3,774万5千円(寄附金額 8億8,033万9千円)

●新型コロナウイルス感染症・物価等高騰対策に係る主な事業

●住民への支援
新型コロナウイルス感染症や一般の物価等高騰を受け、特に家計への影響が大きい住民税非課税世帯等に対して給付金を支給し、生活・暮らしの支援を図りました。2億1,274万1千円

●事業所への支援

物価等高騰の影響を受ける町内の障害福祉サービス・介護サービス等を提供する施設・事業所に対して、質の高いサービスを今後も安定的に継続して提供できるように原油価格・物価高騰対策支援金を支給しました。525万円

●子育て世帯への支援

物価等高騰の影響を受ける子育て世帯の経済的負担の軽減を図るため、児童手当を受給されている人に給付金を支給しました。また低所得の子育て世帯に対しては特別給付金を支給しました。5,495万3千円

●町内小売店、越前焼窯元等への支援

新型コロナウイルス感染症の影響により、売り上げが減少した町内小売店等を支援するためクーポン券を発行するなど、町内における消費喚起を図りました。また、越前焼窯元や中小企業者の事業継続のための支援を実施しました。1億4,998万6千円



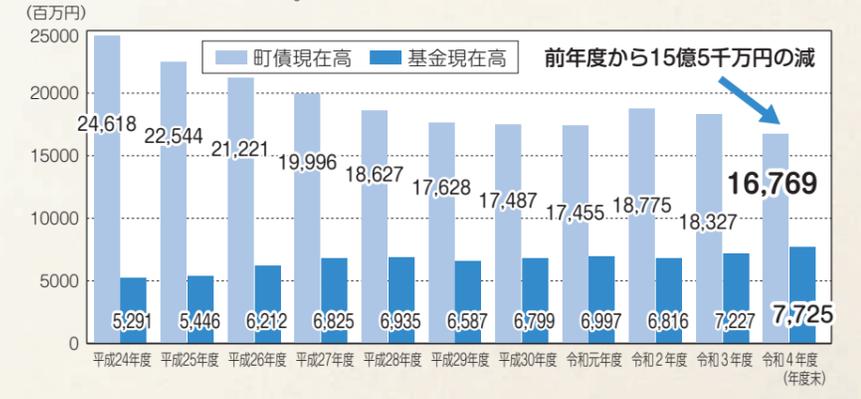
越前かに太郎の家計簿

前ページの「令和4年度一般会計決算の歳入額と歳出額（性質別）」を1,000分の1にし、「越前かに太郎」の1年間の家計に置き換えてみました。

収入		支出	
①給料	235万円	①生活費	660万円
・町税（町民税や固定資産税など、みなさんから納められた税金）		・人件費（各種委員の報酬や職員給与に係るお金）	
②財産・臨時収入	132万円	・物件費（施設の管理費や事業の委託料など）	
・使用料（町の施設や設備の利用料など）		・補助費等（団体などに対する負担金や補助金）	
・負担金（町の事業で利便を受ける人が負担するお金）		②医療費	221万円
・諸収入（貸付金の元利収入や団体・個人からの負担金など）		・扶助費（子どもや高齢者、障がい者の福祉などに係るお金）	
・財産収入（町の土地などの売却代金）		③借金の返済金	141万円
・寄附金（個人や団体から寄附されるお金）		・公債費（町債の元金及び利子の支払いに係るお金）	
③貯金の取崩し	86万円	④家の増築や車の購入費	120万円
・繰入金（町が積み立てているお金（基金）の取崩しや特別会計・企業会計から受け入れるお金）		・普通建設事業費（町の施設や道路などの新・増設や大規模な設備の購入に係るお金）	
④前年度の残金	71万円	・災害復旧費	
・繰越金（前年度決算からの繰越金）		⑤修繕費	31万円
小計(A) ※自主財源	524万円	・維持補修費（町の施設の修繕に係るお金）	
⑤支援金	922万円	⑥子どもへの仕送り	122万円
・地方交付税（国から交付されるお金）		・繰出金（特別会計や事業会計に支出されるお金）	
・国・県からの補助金（法律などに基づく交付金や事業の実施に対する補助金）		⑦貯金	124万円
⑥借入れ	40万円	・積立金（基金に積み立てるお金）	
・町債（銀行などからの借金）		⑧知人への貸付金	4万円
小計(B) ※依存財源	962万円	・貸付金（団体などに対し貸し付けるお金）	
収入合計(A)+(B)	1,486万円	支出合計	1,423万円

町民1人あたり現在高
町債(借金) 約83万円
基金(貯金) 約38万円
 ※それぞれの現在高を、令和4年度末の越前町の住民基本台帳人口20,229人で割って算出しています。

町債の発行(借金)は、元利償還金(返済金)を上回らないよう、計画的に事業を実施するなど、町債現在高を着実に減少させ、財政の健全化を進めています。また、基金は、地方財政法に基づき、前年度の余剰金の半分を積み立てることにより、事業の実施や収入の減少など、将来的な財政負担に備えています。



町債(借金)と基金(貯金)の年度末現在高の推移

わたしたちのまちの財政状況

健全化判断比率と資金不足比率は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律により、各年度決算に基づき算定されます。この比率には、法律で定められた早期健全化基準や経営健全化基準があります。比率のいずれかが基準を超えた場合は、財政健全化計画や経営健全化計画を策定し、財政の早期健全化や公営企業の経営の健全化を図らなければなりません。

令和4年度決算の健全化判断比率と資金不足比率は「健全」

実質公債費比率は9.0%

将来負担比率は2.3%

「実質公債費比率」とは、町債(借金)の返済額などが標準財政規模(※)に占める割合です。町債の返済額などには、一般会計だけでなく、上下水道・病院の公営企業会計、ごみ・し尿処理や消防の業務を行う一部事務組合に対する町からの負担金のうち、団体の借金の返済に充てられたとみられる額も含まれています。この比率が高いほど、町に対する借金に関係する負担が大きくなります。

「将来負担比率」とは、町トータル借金(将来負担額と呼ぶ)が標準財政規模に占める割合です。将来負担額は、次のものなどの合計です。

- ・町債(借金)の残高
- ・上下水道・病院の公営企業会計の借金の返済に充てる一般会計などの負担見込額
- ・職員の退職手当支給予定額

一方、基金(貯金)の残高など(充当可能財源と呼ぶ)があれば、将来負担額から控除することになります。

令和4年度決算では、固定資産税や町民税が増となった一方、普通交付税や臨時財政対策債発行可能額が減となったこと、また、本庁舎整備事業やケーブルテレビ施設改修事業などの大型事業の町債元金償還の開始による元利償還金の増により、実質公債費比率は、9.0%(3か年平均)となり、前年度と比べ0.2ポイント悪化しました。

令和4年度決算では、町債の償還が進み、新規の町債の発行も少なかったことで町債残高が減ったため、将来負担比率は、2.3%となり、前年度と比べ13.1ポイント改善しました。

令和4年度決算の越前町の財政指標

財政指標区分	越前町	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	黒字のため健全	13.78%	20.0%
連結実質赤字比率	黒字のため健全	18.78%	30.0%
資金不足比率	全会計で資金不足なし	20.0%	—
実質公債費比率	9.0%	25.0%	35.0%
将来負担比率	2.3%	350.0%	—

(※) 町税や普通交付税、各種譲与税・交付金など、使途が限定されない通常の年間収入の合計額

問合せ先 財政課 ☎3418711

令和5年度9月補正予算の概要

予算規模

	補正前予算額	補正額	補正後予算額
一般会計	125億6,128万円	1億6,949万8千円	127億3,077万8千円
特別会計	62億3,056万1千円	1億135万8千円	63億3,191万9千円
事業会計	7億4,102万3千円	0千円	7億4,102万3千円
合計	195億3,286万4千円	2億7,085万6千円	198億372万円

9月補正予算の補正額は、次のとおりです。(※補正額は6月補正後に専決した予算も含まれています。)

【主な補正内容】

■エネルギー価格・物価高騰対策として「えちぜんちよう割」を発行し、町内小規模店舗等を支援する経費を計上 (3,000万円)

■若い世代の結婚に対する機運醸成のため、一定の年齢及び所得要件を満たす新婚世帯へ新生活のスタートアップ等に必要費用を支援する経費を計上 (590万円)